

Eternity

永遠につづくみち

Concept

+×÷と聞き数学が最初に頭浮かんだ。そこで数学とは∞という答えが時にはあり、限られた範囲ではなく永遠に続いていると感じた。そして、人生は出会いがあったり、1人で思いにふける時があったりする。その過程で楽しいことと苦しいことなどが繰り返され、命がある限り永遠と考え続ける。多くの人は楽しい時間が永遠に続けば良いと思うだろう。このように人間の欲望や葛藤と、数学の複雑で広がりのある世界に永遠という共通点を感じた。そのため、永遠に続く道の中で人と出会い、思いふけることが出来る場所を提案する。

Diagram 2

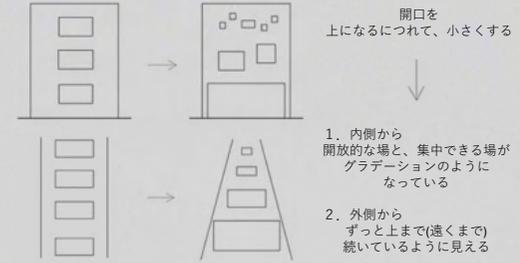
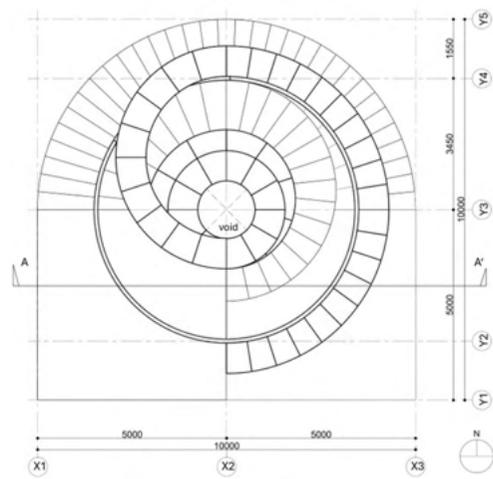
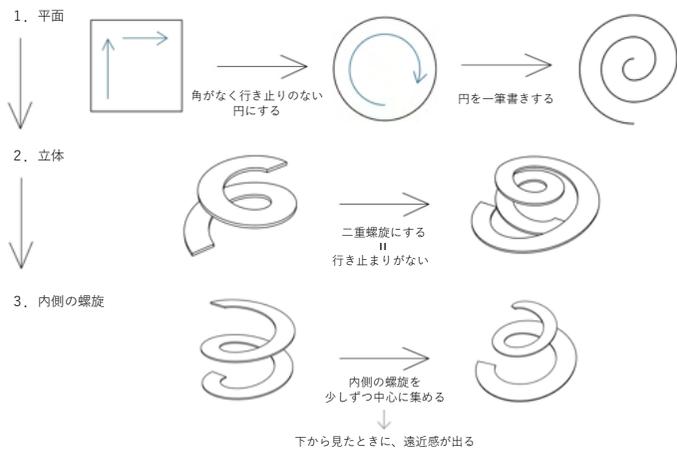
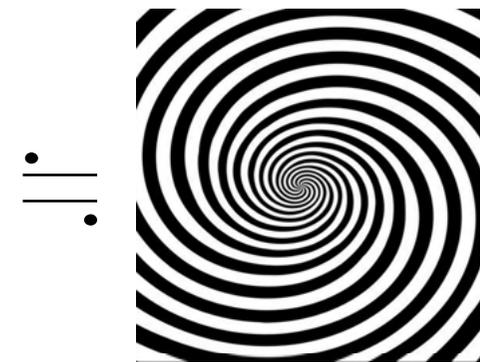


Diagram 1



模型写真 (一階で見上げた時)



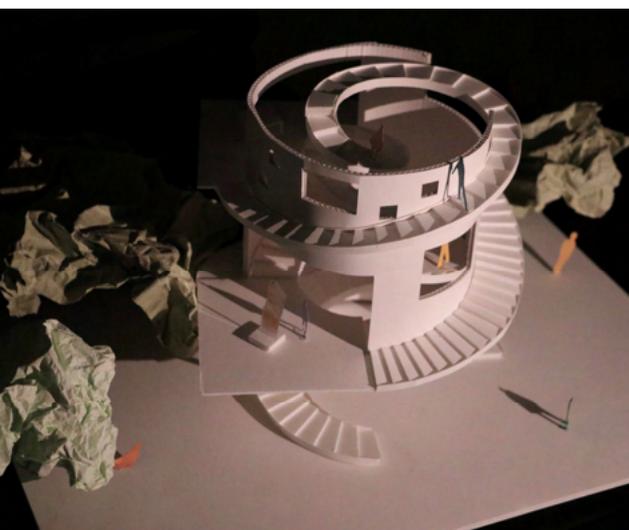
遠くまで永遠に続いているように見える

屋根伏図 1/100



3rd floor

開口が小さいため自分を見つめ、思いふけることができる。中心部にもっと上に続く螺旋階段があり、下から見ると空へと繋がっているように見える。登っている時はこの建物の上たったような新しい感覚を与える。



Steps

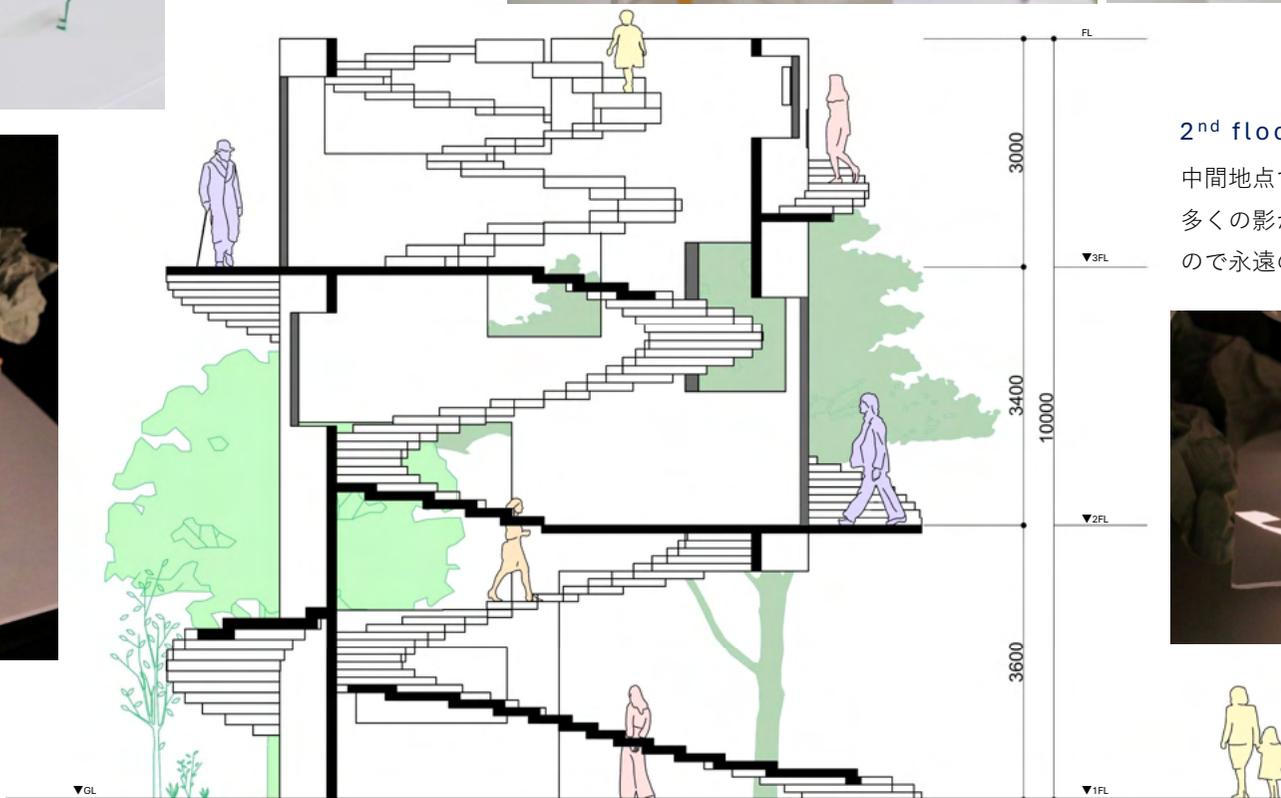
蹴上を100~150mmと低めにすることで階段で人とも気軽にコミュニケーションが取れるような廊下のような階段にした。

二重らせんで行き止まりがないため、様々な動線があり多くの出会いの機会を作った。

- + 階段の一段一段が積み重なっていく。(加えられていく)
- 元はただの筒だった壁に開口をつくり、光を入れた。

10mの立方体の中につくったが、円形と四角形の床を組み合わせることでどの面から見るかで違う印象を与える。

÷ 開口を大きな数字で割るほど小さくて多い開口ができる。そのため、上に行くにつれて開口を大きな数字で割った。



断面図 1/50

1st floor

1階は東側に大きな開口を開けることで朝の光を多く採り入れる。開口が大きいことで開放的で思わず入りたくなるようにした。



2nd floor

中間地点で、上の階段や開口などにより多くの影が入り時間帯による変化が多いので永遠の時の流れを感じさせる。

